

金澤醫學會雜誌第二卷第七號

演 說

◎半陰陽ノ一義ヲ論シ併セテ其裁判

醫學的關係ニ及フ (奉前)

會員 山崎秋津磨

假性半陰陽 Pseudohermaphroditismus ハ眞性半陰陽ニ反シテ實際屢見ル所ナリト雖ニ精密ニ驗査スレハ尿道破裂其他ノ畸形ニ屬スル者ナリ現ニ「ツワイフェル氏」[Weil]ニ從ヘハ一個人ニシテ二種ノ生殖腺ヲ有スル者コソ眞性半陰陽トハ名ツクヘケレ然ラサレハ決シテ半陰陽ナル名稱ヲ付スヘカラスト云ヘリ而シテ其生殖腺單丸ナルハ男性假性半陰陽ト云ヒ卵巢ナルハ女性

假性半陰陽ト云フ共ニ内外全ノ三種アリ

男性假性半陰陽 Pseudoh. masculinus

(一) 外男性假性半陰陽 P. m. externus ハ陰莖萎縮、尿道第三度ノ破裂ヲ有スル者ナリ故ニ之ニ在リテハ陰莖後ニ於テ胎生時ノ尿生殖竇ニ達スル凹窩ヲ存シ子宮ノ入口ニ至ル陰囊ハ左右ニ分レテ大陰唇ノ狀ヲ呈ス此際單丸ノ下垂不充分ニシテ腹腔内ニ於テ潜伏單丸ヲナス之レ「ツワイフェル氏」カ記載セタル男性陰 Vagina masculinus ニ適當スル者ナラン乎蓋シ「ミユルレル氏」管ハ男子ニ於テハ通常萎縮スヘキ者ナレモ亦格外ニ多少ノ發育ヲナスルハ攝護腺竇ハ尋常ヨリ深大トナリ以テ腔ニ適當スル者ヲ形成スル者ナリ此

(演説) 半陰陽ノ一般ヲ論シ併セテ其裁判醫學的關係ニ及フ

百五十四

ノ如キ畸形ハ曾テ「ドールン氏」Dohna 及ヒ「レオ
ポルド氏」Leopold カ實驗セシニアリ

(一) 内男性假性半陰陽 P. m. internus ハ「ミュルレル
氏」管發育セル者ニテシ發育不全ナル痕跡ヲ存スル
者多シ蓋シ「ミュルレル氏」管ハ生理的コテモ攝護腺
ス賈或男子宮ヲ作ル者ニ此際ニハ異常ニ大トナリシ
者ナリ然レモ外陰部ハ主ニ女性定型ヲ離ル者トス
(二) 全男性假性半陰陽 P. m. completus 内陰部及ヒ外
陰部ノ發育ハ前二者ヲ合併シタル者ナリ故ニ「ツワ
イフェル氏」ノ所謂男性子宮「terus masculinus」ニ適ス
ル者ナラン即チ男性子宮トハ男性腔ヨリモ更ニ多ク
腺「ミュルレル氏」管ノ發育シタル者ニシテ外部ニハ尿
而道ノ後ニ腔孔アリ内部ニハ子宮喇叭管發育シ生殖
セ即チ睾丸ハ輸精管ヨリ腔ノ側ニ在ル精囊ニ連通ス
シテ「ボーン氏」Bohn ハ六ヶ月ノ小兒ニ就テ之ヲ實驗

セシニアリ

女性假性半陰陽 Pseudoh. femininus

(一) 外女性假性半陰陽 P. f. externus ハ挺孔甚タシ
ク發育シテ陰莖狀ヲナシ大陰唇癒着シテ腔ノ入口縮
小或ハ消失シ大ニ男子ニ類似ス而シテ他ノ生殖器ニ
畸形ナクシテ挺孔ノミ非常ニ發育セル者ハ稀ナリ此
際ニハ陰莖樣ノ者ハ常ニ孔ナク繫帶モナク鈎狀ニ下
方ニ屈曲ス而シテ挺孔大ナル者ハ大抵腔ノ入口或ハ
其内部ノ狹窄ヲ合併ス之レ全ク發育ノ障害ニアラス
却テ過度ノ發育ト發育障害トヲ存スル者ナリ故ニ内
部ニモ亦多少ノ變化ヲ存ス
(二) 内女性假性半陰陽 P. f. internus ハ通常ノ女性生
殖器ノ外更ニ「ウォルフ氏」管發育シテ存スル者ナリ
反嚙動物ニハ規則トシテ之ヲ存ス之ヲ「ガルトチル
氏」管ト云フ然レモ人類ニハ之ナシ

(三) 全女性假性半陰陽 P. f. completus ハ今日マテ二回ノ經驗アリ共ニ攝護腺ヲ有セリト云フ
半陰陽ノ診斷

其性ヲ診斷スルハ往々不明ナリ歐羅巴ノ風習ニ由レハ中古ニ於テハ半陰陽ノ如キ畸形ハ罪惡ノ爲メニ得タル者ナリト迷信シ「サクラメント」ノ時ニ當リ畸形者ヲ神前ニ呼出シ火責ヲ以テ脅迫セシコアリト云フ今日ニ於テハ縱令中古ニ於ケルカ如ク此畸形者ニ向テ殘酷ノ處置ヲナスコナシト雖モ尙ホ畸形者ヲ我性ヲ發表スルニ大ニ不快ト恐怖ヲ感セシメタリ
性ノ全ク不明ナル者ハ男性ト看做スヘシ何トナレハ男性外陰部ノ障害ハ常ニ女性ニ大ナル類似ヲ呈スルヲ以テナリ而シテ後主ニ男性生殖器官附屬物ニ注意スルヲ要ス殊ニ直腸檢査ニ由リテ攝護腺ノ有無ヲ檢スヘシ何トナレハ攝護腺ハ大抵女性ニ存在セサル者ナレハナリ

分離シタル陰囊即チ陰唇ト假定シタル者ノ中ニ於テ睪丸或ハ副睪丸ノ存在ヲ檢知スルハ大ニ性ノ診斷ニ助ナナスコヲ得ヘシ然レハ陰唇中ニ於テハ時トシテ卵巢「ヘルニア」トナリテ存シ時トシテ圓靱帶ノ尖端鈍圓トナリテ爰ニ終リ時トシテ水脈腺腫起シテ存在スルコアルヲ以テ直ニ睪丸ナリト定ムヘカラス又腫ノ閉鎖或ハ短小ニ由リテ直ニ男子トナスヘカラス例之「ドールン氏實驗セシ者ノ如キハ腫短小ニシテ「ワロシレル氏カ實驗シタル者ハ腫ヲ欠除セリ之ニ反シテ腫アルモ亦直ニ女子ト定ムルコト能ハサルコアリ
直腸檢査法ハ精密ナル診斷ヲナスコヲ得殊ニ女性内陰部器官ノ存在セルハ然リトス何トナレハ腫ハ大抵短小ニシテ之ニ由リテ直接ニ内陰部ヲ檢査シ難キヲ以テナリ
一般ノ性定型ヲ檢査スルハ陰部ノ造構ヲ檢査スルヨリ

(演說) 半陰陽ノ一般ヲ論シ併セテ其裁判醫學の關係ニ及フ

百五十六

モ更ニ緊要ナリ而シテ其注目スヘキ點ハ鬚髯ノ有無陰毛ノ狀態喉頭突出ノ高低聲音ノ如何乳房ノ有無骨盤ノ造構一般肉體上ノ習慣其他精液ノ有無或ハ月經ノ有無等ナリ然レモ之等ノ肉體上ノ區別ハ診斷の價値ナ有スルヲ僅少ナリトス何トナレハ此畸形者ハ管ニ肉體上ノ性ノ區別ヲ呈スルノミナラス精神上ニ於テモ其感動何レニ屬スヘキヤヲ詳カニセサルコトアレハナリ

半陰陽ノ裁判醫學上ニ於ケル關係

半陰陽ハ法律上大ナル關係ヲ有スル者ニシテ歐洲諸國中奧太利ニ於テハ半陰陽ニ對スル特別ノ規定ナシト雖モ爾餘ノ諸國ニ於テハ大抵一定ノ法律アリ

普魯西國法(第一編第一章)ニ據レハ左ノ明文アリ

第十九條 若シ半陰陽ノ生ル、モハ兩親之ヲ定メ其定ラメタル性ニ從テ養育スヘシ

第二十條 然レモ該畸形者若シ十八歳ニ至ルモハ自

其有セント欲スル性ヲ撰フコトヲ得ヘシ

第二十一條 畸該形者ノ權利ハ性ノ撰定ノ后ニ定メラル

第二十二條 其假定シタル半陰陽ノ性ニ付第三ノ人

ノ權利之ニ關係アルモハ畸形者ノ鑑定人ノ檢査ニ由

リテ定メラル

第二十三條 鑑定人ノ所見ハ畸形者及ヒ其兩親ノ撰

定ニ反對シテ鑑定スルコトヲ得ヘシ

既ニ半陰陽ノ性ヲ定ムル時ハ其性ノ如何ハ民法上撰被

撰權結婚件財產讓與等ニ亦大ナル關係アリ

英吉利法律ニ據レハ爵位或ハ所有物讓與ニ關スル件アリ

例之 *Peiswurd*, *Adelsitel* ノノ如キハ一定ノ性ニ於テ

ノミ相續スルコトヲ得ル者トス

佛蘭西法律ニ據レハ半陰陽ノ結婚件ニ關スル疑問ハ陰

素有無ノ證明ニ由リテ制限セリ即チ其陰素ナキコトヲ證

明セラレ得ルモハ法律ノ明文及ヒ法院ノ判定ニ不服ヲ

唱フルヲ得然レモ陰萎ナキノ證ヲ得サルハ法律ニ
 抗抵シテ結婚スルヲ得ス經驗ニ由ルニ半陰陽者ハ大
 抵女兒トシテ教育セラレ且ツ婦人トシテ婚嫁スル者多
 シ而シテ結婚件或ハ生殖機能ノ有無ニ就テ裁判上ノ區
 別ヲ要スルハ精密ニ其性ト生殖機能ヲ調査シ男性ナ
 レハ離婚スヘキハ當然ナリトス殊ニ生殖機能ノ有無交
 接ノ能不能ヲ検査スルハ必要ニシテ女性ナレハ妊娠シ
 得ヘキヤ否ヤ男子ナレハ陰莖發育セルヤ否ヤ精蟲アル
 ヤ否ヤヲ檢定スヘシ

共和政府ニ在リテハ其公民タル者ハ皆參政ノ權ヲ有ス
 而シテ米國ノ如キハ代議士ノ選舉權被選舉權ハ男子ニ於
 テ特有セリ然ルニ半陰陽者ハ此公民權ヲ有スヘキ者ナ
 ルヤ否ヤノ疑問ヲ發スヘキ場合ニ至ルヲナキニアラス
 現ニ「コンチチカカット」州ニ於テ一ノ實例アリ即チ千
 八百四十三年春國會議員選舉ニ當リ政黨ヨリ「レヴィ、

スイダン」Levi Suydan ト名クル二十三才ノ一壯者ヲ撰
 出セリ然ルニ「レヴィ」ハ男子ヨリモ寧ロ女ニ屬スルカ
 若クハ Genis utriusque ニ屬スヘキ者ナリシヲ以テ反對
 黨ハ此選舉ヲ不當ナリトセリ依テ或醫師ハ「レヴィ」ヲ
 検査セシニ男子ナリト鑑定セシモ某醫ハ又女子ナリト
 鑑定セリ此ノ如ク二人ノ鑑定異ナリシヲ以テ更ニ二人
 ノ醫師ヲシテ立會鑑定セシメタルニ共ニ男子トシテ鑑
 定セシニ由リ「レヴィ」ハ議會ニ出ツルヲ得タリ然ル
 ニ數日ノ後「レヴィ」ハ一後ニ正規ノ月經ヲ存セリ一全
 身体格上全ク女性定型ヲ存スルヲ確定セリ即チ膺閉
 鎖ヲ存シ挺孔ハ強度ニ發育シトナシタル者他ノ醫カ陰莖
 陰唇中ニ存在セリ睪丸ト看做シタル者ト云フ

刑法上此畸形者ニ配罪スルニハ其性ニ由リテ差異アリ
 此ノ如キ刑法的問題ハ多ク色慾的所業ニ就テ起ル者ニ
 シテ奸淫ノ如キハ男子ニ在リテハ強姦トナシ女子ニ在

(演説) 「カタラククト」摘出后多量ノ前房出血ヲ偶發セシ患者ノ治驗

百五十八

リテハ猥褻トシテ罪セラル、者ナリ一例ヲ舉グルニ曾
 テ四十七才ノ產婆アリ其所業ニ疑シキ所アリシニ由リ
 人々皆注目セシカ或時胎兒ノ位置ヲ正復スルト云フニ
 託シ妊婦ニ向テ不正ノ所業ヲナセシカ故ニ之ヲ法律上
 ニ調査セシニ該產婆ハ半陰陽ニシテ醫師ハ之ヲ男子ト
 鑑定セリ然ルニ判官ハ其所業ヲ猥褻トシテ論シ之ヲ放
 免セリト云フ蓋シ此所業ハ強姦律ニ抵ルヘキ者ナレトモ
 判官カ故ラニ猥褻ト看做シタル者ハ恐クハ該產婆ハ平
 常女子ナリト自認セシニ由リテ判定セシ者ナラン
 其他半陰陽ニ於テハ他ノ發育障害ヲ存スルト否ヤヲ檢
 スルヲ必要ナリトス即チ罩凡ヲ切除スルコ漸々精神沈
 鬱スルヲ見タルヲアリ又腦發育障害ヲ存シテ初ヨリ精
 神作用不全ナリシヲアリ又病的ニ由リテ續發的或ハ合
 併的ニ精神異常ヲ發セシ者アリ而シテ其同時ニ存在セ
 ル精神異常高度ナルトハ該畸形者ノ法律上ニ對スル責

任ハ勿論僅少ナル者トス

以上論シタル諸件ハ醫士タル者常ニ記憶シ立法者及司
 法者ニ向テ注意ヲ與フルヲ緊要ナリトス

◎「カタラククト」摘出后多量ノ前房出

血ヲ偶發セシ患者ノ治驗

會員 竹 腰 慶 三

「カタラククト」摘出術ヲ施セル患者ニ於テ往々他ノ障害
 ノ爲メニ不意ノ偶發症ヲ來シ之カ爲メニ不幸ノ經過ヲ
 取リ其目的ヲ達スル克ハサルヲアリ而シテ其偶發症中往
 々來ル者ハ虹彩炎、漿液性結膜浮腫、創口化膿、角膜浸潤
 、前房出血、稀レニ眼底出血ナリ然レモ治療ノ適切ナル
 ト患者ノ攝生ニ由テ通常防禦シ得ル者トス

今余カ述ヘント欲スル者ハ前房ノ出血ナリ此出血ハ「
 シレンム」氏管或ハ虹彩切面ヨリ來ル者ニシテ素ヨリ術